
恋人との別れ

STR

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋人との別れ

【NZコード】

N6501M

【作者名】

STR

【あらすじ】

男はある場所を訪れた。

そこは恋人との思い出の場所だった。

ここがあ……。

ここに来ると昔の記憶が呼び起^される。
恋人との忘れることの出来ない記憶が。

「ごめん、待つた？」

今思い返しても恥ずかしかった。私にとつては初めての彼女でとても緊張したのを今も憶えている。

「うん。とつても待つたよ」

私の問い合わせに対する彼女の答えがそれだつた。

あのときの私はどんな顔をしていたのか自分でも気になるもだ。よほどおかしかったのだろう。彼女は、くすくすと笑い始めた。

「え、どうかしたの？」

あのときの私はほんと何をやつていたのだろう。今こうして思い出すだけでため息が出てしまう。

まあ、何はともあれ彼女とのデートの滑り出しは好調だつた。

しかし、今思つとよく彼女をデートなんかに誘えたものだと思つ。過去の自分に拍手でも送つてやりたいものだ。

彼女とは会社の同僚だつた。しかし、接点はまったく無かつた。当時の私は、何をやらせてもダメで営業での成績も最下位。一方彼女は、成績優秀、才色兼備、おまけに美人とされている。社内での評判もよく、ライバルは多かつた。

ここまで言えれば分かると思うが私は彼女に恋をしていた。

「釣り合わない」

私が彼女を好いていることを仲のいい友人に話したときにそう言われた。

確かにそうだ。本来なら私が恋する事もおこがましかつたのかも知れない。友人にそういうわれたとき。私は、この思いは私の心中

に仕舞つておこうと思つた。だが友人はこうも言つた。

「だけどな、釣り合わなくとも良いじゃないか。とりあえず彼女に思いを告げる。よく言つじやないかあたつて砕けるとそうだろ。少なくとも俺はそう思つた」

その一言で私は彼女に告白をしようとした。やつには感謝しないといけないな。

次の日、私は彼女に告白をした。

「あなたのことが好きです。付き合つてください」

我ながら直球だったと思う。もう少しひねりは無いのか。言つたあと自分でも顔が真っ赤になつた。

しばらくの間は互いに沈黙を守つていた。彼女から私の告白に対する返事はなかなか返つてこなかつた。

しばらくしてから彼女がぼそぼそと何か言つているようだつた。耳を澄ませ聞いてみると、どうやらそれは私の告白に対するOKだつた。

私はそれを聴いた瞬間に夢ではないかと思いほほをおもいつきり抓つた。ものすごく痛かつた。

痛くて飛び上がりそうになり辺りをぐるぐる走つていた。

そんな私を面白そうに彼女は見ていた。

そして私は彼女をデートに誘つた。

最初のデートは、遊園地へと向かつた。楽しそうに遊ぶ彼女の顔は今でも思い出しが出来る。

一回目のデートはショッピングだった。彼女に服をプレゼントしたな。なけなしの給料で見栄を張つたもんだから後の生活はちょっと化かしきつかつた。

彼女とのデートは全て憶えている。楽しかつた。彼女の慶ふ顔が嬉しかつた。

一年後のデート。

その日はちょうど彼女と付き合つてから一年になる記念日だつた。その日のデートが恋人との最後のデートとなつた。

彼女は言った。

「最近、私といても何か別のことを考えている。私のこと嫌いになつたの？」

彼女の目には涙がたまっていた。

私は、彼女に一言言つた。

彼女は泣きじやくくりうまくしゃべることが出来ないようだつた。

彼女の泣き顔は今でも憶えている。

その日は眠ることが出来なかつた。

次の日、彼女と私は彼女とショッピングに出かけた。

彼女の左手に薬指には私の送つた指輪が光つていた。

おつと、もうこんな時間が。

今日ここで妻とのデートがある。

結婚五周年記念の大好きなデートだ。

終わり

(後書き)

最後まで読んでいただきありがとうございました。
恋愛ものは初めて書きました。
なので、感想をいただけたら幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6501m/>

恋人との別れ

2010年12月30日22時41分発行